

# さ ざ ん か

第91号、2009年6月

もしかしたら、晩春から初夏にかけての季節が一年で一番過ごしやすい季節なのかもしれないですね。なんと言っても風がさわやかです。着る服も、重からず、軽からずでちょうどいいし。寒さに身を縮めることも、暑さにうだることもない。伊佐平野では、いま、田植えが盛んです。これまでくすぶっていた灰色の地面に水が張られ、張られた水面に遠くの空の青や近くの山の緑が映っています。これが日本と云う国の原風景なんだなあ、と思いながら通勤の途中での景色を楽しんでいます。

やっぱり、水田は守っていかなければならない貴重な日本人の財産だと思います。それを守るのに、コストとか効率とかいう概念をもってくる必要はないのでしょうか。あえてもってきたにしても、それはいくらコストを支払っても守らなければならないものだという認識が必要です。ただでさえ低い食料自給率のわがニッポン。いざと云うときは、目の前の食糧の前では札束はただの紙切れか、紙くずにすぎなくなるでしょう。経済不況ならぬ、食糧不況はやがてやってくるのです。だからこそ、いざその時に備えて、フランスや、イギリスや、ドイツや、アメリカは食糧自給率を100%以上に保っているのです。アメリカ国民が飢えそうなときに、同じように飢えかけている対岸の日本人が、いくらでもお金を積むから、と頼んでも食糧は分けてもらえないでしょう。当たり前です。アメリカ合衆国政府にそこまでの気持ちも覚悟もないのは当然でしょう。自国民を守るのが、政府の役割なのですから。

食糧は生きる上で絶対的に必要なものです。モノはなくてもなんとかなるけど、食べ物はないと、なんともならない。もっと、真剣に食糧、つまりは農業のことを考えてくれる日本政府であって欲しいと、伊佐平野の水田を見ながら考えたりしています。

---

俳句 西屋敷喜美子

弟の 秀作写真 届く初夏  
濃紫陽花 涙の訳は 言わぬまま  
夏立ちぬ ホテル廊下の 古代展

## 病院からのお知らせ

- \* インフルエンザ流行の季節もどうか終わりそうですが、せっかくの習慣ですから、うがい、手洗い励行はそのまま続けましょう。
- \* 鹿児島県でも、新型インフルエンザの国内発症が確認されました。個人として心がけることは、季節性インフルエンザと同じです。発熱して心配な方は、まず保健所の発熱相談センターにご相談ください。
- \* 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの神経内科専門医が担当し、それ以外の曜日は高橋先生の担当になります。
- \* 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来（4月から月2回に増えます）、糖尿病外来（月、金：福重先生）の専門外来も開設しております。
- \* 4月から下記の医師が新しく赴任しております。よろしくお願いいたします  
内田章文：平成15年 自治医科大学卒業  
隈元朋洋：平成16年 鹿児島大学卒業  
堂嶽洋一：平成19年 自治医科大学卒業
- \* 脳神経外科外来について：4月からはやむなき事情により週1回金曜日になっております。担当医師などの詳細は脳神経外科外来でお尋ね下さい。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみたいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることがあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- \* 「さざんか」への投稿をお待ちしております。どうせ素人集団の広報誌ですから、巧拙は関係ありません。思い出作りに、是非、一度は投稿してみても如何でしょうか。

## さようなら車君

宮園辰夫

昭和 33 年 8 月に免許を取得して、約 50 年。本当に車君には御世話になりました。その間、車も 8 台乗り換えましたけれども、無事故、無違反 3 回表彰。誠に嬉しい生涯でした。他人様に迷惑をかけなかった事が何よりの運転人生でした。

来月の 6 日で満 84 才になります。病気は病院で治療が出来ますが、事故はどうにもなりません。死亡又は何年もの後遺症、色々大変な事が続けば、死を選ばなければならない様なことになりかねない、と色々と考えて居た所に、先生からの注意もあり、免許の自主返納を決めました。しばらくは、足がなくなれば不自由はすると思いますが、それもしばらくの間と思います。ここで、今までの無事故・無違反が何にもなくなるよりも、今が一番よい潮時だと思います。

さようならという言葉は誠に寂しいが、本当に有難う車様々した。そしてまたいよいよ、平成 4 年の 4 月に脳梗塞で倒れ、入院、退院してから 17 年間、本当に親切に又やさしく治療していただきました。当時の平成 4 年 5 月に一緒に入院されていた方は、殆どが生存していらっしやらないと思います。私はその間、3 回入院しましたが、本当に先生をはじめ看護師さん方の、手やさしい看護で 17 年間本当に有難うございました。17 年間の思い浮かべれば、誠に胸が詰まります。

皆様方は転勤と云う宿命がありますが、どこに転勤されても元気で体を営み、患者さんから、立派な看護師さんと親しまれる日本一の看護師さんになって下さいます様に、お祈りしています。5 月 29 日の通院を最後に、お別れ難いですが、さようなら、を言わせて下さい。新しい病院に紹介していただいても、忘れることなく、精一杯努力して、元気を保って行きますので、よろしく願いいたします。色々と検査の時は、又、北薩病院の方へゆく事があると思います。その節は、何卒よろしく。院長をはじめ、総師長さん、看護師さん達、皆様方の健康と幸福を伏してお祈り致します。最後の「さざんか」にはなりません、お許しを。

### 俳句

よそゆきの 顔の冠雪 桜島  
竹の箸 割って始まる ひな祭り  
鶯の 声に囲まれ 畑仕事

### 狂句

本当<sup>ほんたご</sup>で心配さすいがインフルエンザ  
我家<sup>わがやい</sup>も埋蔵釜<sup>かくしづん</sup>があればネー

---

---

**短歌**

---

---

瀬戸よし子

日差しよけ 若葉の下に入りし時 白く落ち来る 柿の木の花

藪茶つむ 傍らに鳴く うぐいすの声に合わせて 口笛を吹く

つんつんと 伸びたる 若き茶の芽摘む あたりに漂う 新茶の香り

---

---

**今日一日を大切に**

---

---

別府政隆

朝からどんよりと曇った天気で、気分も優れない。特に、これと云った予定がない。暫らく経ってからの事、突然友人が私に会いに来た。妻と3人でお茶を飲み乍ら、約2時間余り、話題も豊富で話もはずみ、泣き笑いする様で時を忘れていた。友人も、急に思い出したのか、なごり惜しむかのように又逢う事を約束して、握手して別れる事にした。私も友人のお陰で気分的にも、すっかり元気を取り戻していた。

妻が墓参りに行こうかと声をかけた。これまで、すっかり忘れていた墓内の竹ホーキが気になり、妻に暫らく待ってくれと云い乍ら、機械を取り出し作業に取りかかった。約30分で出来た。ま新しい竹ホーキで、きれいに清掃した後は、とてもすがすがしい気持ちで落ち着くのである。妻が、きれいに出来て本当に良かったね、と喜んでくれた。私も3年前、妻も今年70歳を迎えた。5年前とは違う、体力的にも精神的にも衰えを感じる昨今、私の集落も高齢者が多いのである。中でも、独居老人も少なくなり、昨年、私も老人会長として3年目のスタートをしたばかりだが、老人間の人間関係も色々な問題点もある。

併し、残り少ない人生を、悔いのない楽しい1日を過ごすことであると思う。まずは健康である事、くよくよしない事ではないだろうか。お互いが語らいの場を作り、譲り合いの精神を持つことではないだろうか。残り少ない人生を楽しく、悔いのないよう過ごしたいものです。

---

---

**生き抜くと云うこと**

---

---

カラーマン（とその女）

あいかわらず日本人の自殺者は年間3万人を超えているとか。なんとも言えない数字である。毎年、伊佐市の人口と同じくらいの数の人々が自殺していることになる。（なんか、そう考えると凄いわねえ。）ここ数年、自殺者は続けて3万人を超えてはいるが、昭和61年でも2万5千人くらいの方が自らの命を絶っていたようだから、もともと日本人は自殺傾向があるのかもしれない。

(サムライのハラキリの伝統があるのかしら。でも、お侍さんは人口からするとほんの一握りだったようだし、それが国民の性質かどうかは分からないわね)

ちなみに、自殺率が日本(10万人当たり25人)より高いのはロシア(10万人当たり39人)、ハンガリー(同じく33人)で低いほうのグループはイタリア(同じく7.1人)イギリス(7.5人)だということだ。(何となく分かるような気もするわね。ドストエフスキーとかトルストイとか人生とは何ぞや、といつも難しい顔して考えているような雰囲気だし、イタリア人のいい加減さというか、底なしの明るさはとても自殺しそうじゃないものね)

生と死は生物であることの証というか、生と死があるから生物たりうるのだから、死は生まれたその瞬間から宿命づけられていることは自明のことであるし、ある意味、われわれは日々、死に向かって一日1日を過ごしていることは確かだろう。

それが、明日なのか、来月なのか、来年なのか、10年後なのか、30年後なのか、などの長さの違いはあるにしても。

時の流れとしての生命を考えると、一様に、生まれて生きて死ぬだけ、と云う意味ではすべて同じかもしれないが、あまりにも大きく捉えすぎると個々の生命の存在感が小さくなってしまったり、あまりにも小さく捉えると個々の生命の存在が大きくなりすぎて、ちょっとしたことから深刻になりすぎて、自ら生命を絶ててしまったりするのではないだろうか。(実際、貧困地帯にあるアジア・アフリカの子供達が毎日何十万人と死んでいっても、それはあくまでわれわれの多くにとっては他人事だし、身近の人の死や自らの死はそれこそ世界や人生が変わってしまうほどの大きな出来事になってしまうものね。)

「人間は生まれて、生きて、死ぬだけ」、という淡々とした言葉にはどこか達観した心境を感じるし、たしかにそうなのかも、と思ったりもする。生物として、与えられた生命を淡々とこなしていく。運がよければ、たまたま与えられた生命の寿命を全うできるし、運がわるければ、早々に生命を奪われる。そういう、宿命の中で、生にこだわることなく、あがくことなく、日々の日常を自分らしく生きていく。そういう考え方もあるだろう。

(まあ、多くの方は生命そのものに執着しているのじゃなくて、愛とか家族とかお金とか仕事とか、友人とか、社会的地位とか、財産とか、そういうものを失うことが悲しいのでしょうからね。明日もみんなの顔を見たい、明日も子供達と一緒に過ごしたい、明日も愛する人と同じ時を分かち合いたい、などとね。)

いつまでも一緒に居たい、と云う気持ちが恋人達を心中に誘うのであろうか。生きていても、一緒に居なければ生きている意味がない、と考えるその中には、少なくとも生命そのものに対する価値は低くなっているような気もするね。(そうね。一緒に居ることが大切

なのであって、あの世ですっと一緒に居られるなら別に命にこだわって、この世に執着する必要もないわ、ということでしょうね。)

一方で生命そのものの価値を唯一とする生命至上主義という考え方もあるようだ。人の命は地球よりも重い、と云ってテロリストを釈放して世界の輿論を買ったこともある日本人だが、同じ日本人が3万人を超える自殺者を出しているのも面白いといえば面白い。3万人のうち、ちゃんと手を差し伸べれば、自殺せずに済んだ人は沢山いるのではないだろうか。(うつ病の治療とか、経済的支援とか、それだけでも随分多くの人が助かるかもしれないわね。少なくとも自殺は生命の自然淘汰の1現象ではないでしょうから)

生命至上主義を考えると、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」とか、俗に言う救命艇の倫理を考えざるを得ない。たった一人を救うために、大勢がともに犠牲になるべきか、大勢の命を助けるために一人の命を犠牲にしてよいのか、という堂々巡りみたいな議論がある。

人間社会を考えたときには、一人が犠牲になって残りの99人が助かったほうが、一人を助けるために全員が死亡するよりも、倫理的ではないかもしれないけれど、正しい選択なのであろう。(そうね。正しいかどうかを決めるのが、生き残った99人だとすると多分、苦渋の選択、という言葉であれば正しかったのだ、とするでしょうね。それは、社会という集団が存在する限り必然の選択になってしまうわ)

捉え方で変わっていく生命の価値観。命よりも名誉。命あつてのモノダネ。何よりも尊い命。ペットの命とヒトの命は同等か。他の動物の命を奪って食して日々生きているヒト。グルメな人々。もうすぐ「仔牛のカツレツ」になるだろう、市場に売られていく可愛い仔牛。お金に換算される命。増えるお金目当ての医療訴訟。臓器移植問題。脳死はヒトの死。命のリレーとは・・・

「命とは？」という問いに答えるのは難しい。なぜなら、そこには無数の解答があるだろうから。「命とは?」「人生とは?」と考えながら、結論が出ないままに、命が尽き、人生を終えるのもまた虚しい気がする。

いまは、命について考えるのはやめて、とりあえずは、生き抜く、ということが大切ではないだろうかと呼びかけたい。未曾有の高齢化社会である。人類5万年の歴史の中で初めて経験する社会なのである。70歳になっても、80歳になっても、90歳になっても、したたかに生き抜いて欲しいと思う。お年寄りも、せつかくここまで生きてきたのだから、当たり前だけど人生は1回きりなのだから、ここまで来たからには、とことん行き着くところまで生き抜いて欲しいと思うのである。

(なーんだ。結局、今回は、高齢者応援メッセージだったんだ。分かりにくかったなあ。

でも、あたしも同感だわ。なんか最近少子高齢化とかで、年金、医療問題をいうとき、あたかも高齢者が悪いような風潮があるものねえ。「年寄り早く死んだほうがいい！」とみずから口に出す年寄りが多いことに驚くわ。今の豊かなニッポンを作ったのは、彼らなのに、お荷物扱いはひどいわよ。結局お金の問題なのであるのならば、知恵を出せばお金はいくらでも出てくるはずだわ。今は知恵を出してお金をくすねることばかり考えているからいけないのだわ。終わり良ければすべて良し、という老後を過ごさせてあげたいし、あたしもそういう老後を過ごしたいなあ)

---

---

## 一度

坂村真民

人は一度  
死なねばならぬ

日は一度  
沈まねばならぬ

光は一度  
闇にならねばならぬ

これが宇宙の教えだ

このことがわかれば  
大概のことはわかる

---

---

## 編集後記

連続記録が途切れた前回（と言っても、連続することに何の意味もないし、比較の対象もないのですけれどね。単なる自己満足、自己満足）。その後、病気をすることもなくそこにはありますが、元気に過ごしております。それにしても、年を取るといことは、どんな理屈をつけようが、どんなに居直ろうが、やはり、寂しいことではありますね。五木寛之のいう、あきらめる（明らかに究める）という姿勢が一番受け入れやすいような気がしますが、みなさまはいかがお考えですか？これから暑い日が続きます。くれぐれもご自愛下さいませ。(KT)